

# 共生社会システム学会ニュースレター

The Association for *Kyosei* Studies

暫定 HP <http://jaks.exblog.jp/>

2007年3月9日発行 第2号

## 目次

1. 2007年度大会開催のご案内	1
2. 2007年度大会個別口頭報告の募集	2
3. 理事会からの報告	2
4. 編集委員会の活動報告	3
5. 運営委員会事務局だより	3

## 1. 2007年度「共生社会システム学会」大会開催のご案内

2007年度大会は、「共生型エネルギー社会の可能性」を大会シンポジウムのテーマに設定（下記の大会趣意をご参照ください）して、2007年6月23日（土）に東京農工大学府中キャンパスにて開催されます。大会のプログラム（予定）は以下のとおりです。

午前の部

9:00

受付開始

9:30 ~ 12:00

テーマセッション（個別口頭報告）

午後の部

13:00 ~ 17:00

シンポジウム「共生型エネルギー社会の可能性」

17:00 ~ 18:00

総会

総会終了後 懇親会（大学生協）

共生社会システム学会シンポジウム

テーマ：「共生型エネルギー社会の可能性」 講演タイトルは全て仮題です。（敬称略）

座長 千賀裕太郎（東京農工大学教授）

講演1：柏木孝夫（東京農工大学教授）「新エネルギー開発の動向と課題」

講演2：横山信也（東京大学教授）「バイオエネルギーの可能性」

講演3：飯田哲也（NPO法人環境エネルギー政策研究所所長）「自然エネルギー政策の動向」

コメンテーター 環境省担当者（交渉中）

コメンテーター 千年篤（東京農工大学助教授）

大会の詳しいプログラムは次号でお知らせします。また大会に関することは学会ホームページでも随時お知らせする予定です。

### 「共生社会システム学会」2007年度大会シンポジウムの趣意

近年、原油価格の高騰とともにバイオマスエネルギーや風力や太陽光などの代替エネルギーが世界的に注目されています。政府は2010年までの新エネルギーの供給見通しを立てていますが、バイオマス発電分野で1999年度5.4万キロリットルから34万キロリットルに、熱利用分野でゼロから67万キロリットル（いずれも原油換算）を目指すとしています。

一方で、先進国を中心に穀物やサトウキビからエタノールを抽出する動きが広がっていますが、それらの需要増大によって穀物価格や砂糖価格の上昇を招き、途上国では食料調達に支障を来しつつあります。

そこで、本シンポジウムでは化石エネルギーに代替し、持続可能な共生型エネルギーの在り方について議論します。具体的な論点としては、共生型エネルギーの開発現状と課題、食料とエネルギー利用の調整問題、先進国と途上国と共生の在り方等です

大会担当理事 野見山敏雄・朝岡幸彦  
大会実行委員長 矢口芳生

---

---

## 2 . 2007年度大会個別口頭報告の募集

### 2007年度大会でのテーマセッション（個別口頭報告）の報告者を募集致します。

報告希望者は、以下の要領に従って、学会運営委員会事務局までご連絡ください。

筆頭報告者は報告申込時に本学会員であること。会員でない方は至急入会手続きを行ってください。

個別報告の申込みに当たっては、個別報告申請書と 報告要旨の両方を提出すること。

**各様式はこのニュースレターの最終ページにあります。**要旨はA4判1ページにしてください。

報告時間は報告 20 分、質疑応答 10 分です。

提出方法： 学会運営委員会事務局まで、郵送またはEメールでの添付

〒 183-8509 府中市幸町 3-5-8 東京農工大学農学部 千年研究室気付

「共生社会システム学会」運営委員会事務局宛

chitose@cc.tuat.ac.jp (千年)

提出締切日： 2007年5月7日(消印有効)

---

---

## 3 . 理事会からの報告

2006年12月17日(日)に第1回理事会が東京農工大学府中キャンパスにて開催されました(出席者16名、委任状7名)。理事会で審議・決定された主な事項は以下のとおりです。

1) 2006年度予算案が承認された。本年度予算の支出は10月に開催された設立総会の費用が主たる費目である。

2) 「日本学術会議協力学術会議研究団体」加盟申請が承認された(現在、加盟申請中)。

3) 学会設立準備委員会で学会事務は財団法人農林統計協会(以下、統計協会)に業務委託することが決定されたが、学会発足以降も統計協会に学会名簿管理や学会費徴収事務を担当してもらっているとの説明がなされ(ただし統計協会の好意により、初年度の委託費は請求なし)、今後も継続的に学会事務を統計協会に委託することが承認された。

4) 会則第3章第6条に従い、117名(うち30名が学生会員、2名が賛助会員)の入会申込者を学会員として承認した。

5) 大会開催について担当理事から説明され、承認した。

6) 10月7日の総会で指摘された会則の3点(機関紙投稿規程に関する件は除く)と運営委員会で指摘された学会住所明記の追加という計4点に関して審議がなされ、以下のように対応することが承認された。

第1章第1条(名称)にある学会の英文名は、修正原案"The Association for Kyosei Society"を"The Association for *Kyosei* Studies"(略称AKS)に修正する。

第3章第7条(入会金および会費)に関連して、会費未納の会員に機関誌を配布するの

は問題ではないか、会費納入後に機関誌を配布すべきではないかという指摘に関しては、原案のままとし、未納会員にも機関誌を配布することとする。その理由は、事務手続き上困難であること、第9条(退会)で退会に際しては未納会費の納入を義務づけていることの2点である。

第5章第14条(総会)に関連して、総会に定足を設けないのかという指摘に対しては、当面は現状のまま定足を設けないこととする。したがって、第14条の修正は行わない。ただし、将来的に学会の法人化を考えた場合には定足数の設定が義務付けられ、それに伴い委任状方式の導入が必要になる。法人化を含めた本事項は、学会の今後の検討課題とする。

付則二に、以下を明記する。「本会の事務局を東京農工大学大学院 農学府 共生持続社会学専攻 農業経済学研究室に置き運営に当たる。連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8 矢口芳生 Tel/Fax: 042-367-5864 E-Mail: yaguchi@cc.tuat.ac.jp」

この追加修正は、学会住所は学会員からの会費納入の預/貯金口座の開設にも必要であるという実務上の理由が大きい。なお、学会住所は運営委員長の所属先に規定し、運営委員長交代時に学会住所も変更することにする。

の件では、学会の目的や趣意を表す最も相応しい名称は何かということが問題となり、学会和文名称「共生社会システム学会」や学会機関誌の英文名称 *Kyosei Studies* との絡みからも、活発な議論が展開された。System という英単語の持つ意味とその与える印象などについての意見交換が行われた。System は rigid な意味が含まれること、またそれはシステム論と誤解される恐れもあることから敢えて学会英文名に入れる必要はない、また学会機関誌の英文名称 *Kyosei Studies* は、*Science Studies* に例示されるように、理系・文系両者を含む

学際的・総合的な雑誌を目標とする上では本学会には相応しく、むしろ学会名をそれに合わせた方が好ましいのではないかという意見が大多数の理事の間で支持され、学会の英文名称を The Association for *Kyosei* Studies に、また学会機関誌の和文名称を『共生社会システム学研究』から『共生社会システム研究』に変更することが決定された。

学会名称ならびに機関誌名称は会則事項（第1条二、第3条二）であるから、本来的にその改正には総会での承認が必要となるが、総会開催以前にニュースレターや機関誌が発行されるため、先行して適用し次期総会において理事会で満場一致で決定された議案として追認という形で、学会員に理解・承認してもらうことにする。

---

---

## 4．編集委員会の活動報告

編集委員会会議ならびに理事会での審議を経て、機関誌『共生社会システム研究』の英文名は *Kyosei* Studies に決定した旨お知らせいたします。

機関誌『共生社会システム研究』創刊号（年刊）は、2007年度6月末発刊を目標に編集作業を進めています。創刊号は学会設立シンポジウム・パネリストによる論文3本、特集テーマ（「共生とは何か」）に関する依頼論文5本、一般投稿論文6本から構成される予定です。

第2号以降については随時、投稿論文を受け付けておりますので、会員各位におかれましては奮ってご投稿ください。投稿規程などの詳しいことは学会ホームページ <http://jaks.exblog.jp/>内の「投稿規程」を参照してください。また、投稿原稿の執筆および提出の際は、同ホームページの「執筆要領」に従って作成・提出してください。

投稿についての質問および問い合わせは、下記、編集委員長 武田までお願いします。

『共生社会システム研究』編集委員長 武田庄平  
国立大学法人東京農工大学大学院 共生科学技術研究院 比較心理学  
〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8  
E-mai : [takeda@cc.tuat.ac.jp](mailto:takeda@cc.tuat.ac.jp) TEL : 042-367-5588 (ダイヤルイン)

---

---

## 5．運営委員会事務局だより

6月23日（土）に大会総会が開催されることが決定しました。学会員の皆様には是非ご参加して頂きますようお願い申し上げます。また、**個別口頭報告への多数の応募**をお待ちしております。

前号でお知らせしましたとおり、本号では一部会則に関して理事会で審議・決定された事項をご報告しました。主な修正は学会の英文名称（新名称：The Association for *Kyosei* Studies）と機関誌名称（同：共生社会システム研究）ですが、本号においても新名称を使っています。

学会のロゴマークを引き続き募集しています。良案のある方は、是非、学会事務局までお知らせください。

現在の学会申込者総数は122名（うち学生会員31名、賛助会員2名）です。学会員の皆様には会員拡大にご協力くださいますようお願い申し上げます。入会申込書は学会ホームページ <http://jaks.exblog.jp/> からダウンロード可能ですので、本学会に関心を持っていただけそうな方が皆様の身近にいらっしゃいましたら、是非、お誘いのお声を掛けて頂ければ幸甚に思います。

エッセイ、出版物紹介、研究機関や研究プロジェクトの紹介など、学会ニュースレターに掲載する原稿やお知らせを随時募集しております。量は特に規定いたしません。皆様からのご投稿をお待ちしております。なお現行の採否は運営委員会事務局で決定しますので、その旨ご了承ください。原稿送り先は、号末に記載されている連絡先です。

---

---

(大会報告要旨 様式：A 4 判 1 枚) フォント：和文は明朝体、欧文・数字は Century

左マージン 23mm	天マージン 28mm	右マージン 23mm
<b>共生社会とは何か</b> - 共生社会へのみちすじ -		
1行あき	タイトルは 14 ポイント、サブタイトルは 10.5 ポイント。中央揃え	
府中花子・国分寺太郎* (共生大学・*共生研究所)		
1行あき	著者名は 12 ポイント、所属は 10.5 ポイント。中央揃え	
文は 10.5 ポイント、1 行全角 46 文字、行送り 15 ポイント、左右揃え		
地マージン 28mm		

(大会報告個別申請書 様式) A 4 判 1 枚に以下の内容をご記入ください。

氏名：  
報告表題：  
分野：  
所属機関：  
連絡先住所：  
連絡先電話番号：  
F A X (もしあれば)：  
E-mail (もしあれば)：

(分野はプログラム編成時の参考にいたします)

---

---

会費納入のお願い

まだ 2006 年度会費を納入していない会員におかれましては、至急会費を納入していただきますようお願い申し上げます。会費は、一般会員 6000 円、学生会員 3000 円、賛助会員 20000 円となっております。よろしくお願い申し上げます。

共生社会システム学会 会長 小原秀雄 (女子栄養大学) 副会長 尾関周二 (東京農工大学) 水本忠武 (宇都宮大学)	運営委員会事務局 矢口芳生 (運営委員長) 秋山満、安藤光義、稲村亮、千年篤、 中尾誠二、中島正裕、吉田央
---	--

共生社会システム学会ニュースレター 第2号 2007年3月9日発行 編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局 連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学府 千年篤研究室 気付 TEL: 042-367-5687 E-Mail: chitose@cc.tuat.ac.jp 郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会
--